戦国の時より続く城下町 ――臼杵

慶長五年（一六〇〇）、初代臼杵藩主稲葉貞通が美濃（岐阜県）の郡上八幡から移封されて以来、十五代久通まで、およそ二七〇年間に渡り、稲葉氏がこの地を統治しました。

稲葉氏の居城であった臼杵城は、十六世紀半ば、大友宗麟によって築かれた城を母体としています。丹生島城と呼ばれ、干潮のときに一か所だけ砂州ができて陸地とつながる、全国でも珍しい海城でした。

明治になって周囲が埋め立てられるまで、城は海に浮かんでいたのです。



17世紀前半の臼杵城下町

― 案 内 図 ―



【交通アクセス】

●鉄道
JR日豊本線 臼杵駅より
徒歩約15分

●高速道路
東九州自動車道 臼杵I.C.より
約10分



庭園のみペット同伴可です。
マナーを守ってご利用ください。

■下屋敷本棟
来訪者の憩いの場。下屋敷の雰囲気にあった催物の開催。

■西の棟　大西の棟
読み聞かせ等図書館と連携した活用。
文化活動やコミュニティ活動など。
※営利目的の使用は原則不可

開館時間	9:00～17:00（最終入館は16:30）

入館料		※臼杵市民は身分証の提示で無料となります。
大人（高校生以上）		330円
小人（小・中学生）		160円
団体（20名以上50名未満）	大人（高校生以上）	250円
	小人（小・中学生）	130円
団体（50名以上）	大人（高校生以上）	230円
	小人（小・中学生）	120円

4施設共通入場券			
国宝臼杵石仏 550円 吉丸一昌記念館 220円 野上弥生子文学記念館 310円 稲葉家下屋敷 330円	1,410円	大人（高校生以上）	1,140円
		小人（小・中学生）	560円

2施設共通入場券			
国宝臼杵石仏 550円 稲葉家下屋敷 330円	880円	大人（高校生以上）	710円
		小人（小・中学生）	350円

貸館利用料		
下屋敷本棟（大書院・御居間・台所・庭園）	1時間当たり	410円
西の棟・大西の棟	1時間当たり	各310円

旧臼杵藩主 稲葉家下屋敷
臼杵市産業観光課
大分県臼杵市大字臼杵6番6
TEL080-4063-9855
大分県臼杵市大字臼杵72番1
TEL0972-63-1111

2025.11.20000

旧臼杵藩主 稲葉家下屋敷

（国登録有形文化財 旧稲葉家別邸）

旧平井家住宅

（大分県指定有形文化財）



稲葉家下屋敷（旧稲葉家別邸）　■国登録有形文化財



旧稲葉家別邸は、廃藩置県に伴って東京へ移住した旧藩主・稲葉家の臼杵滞在所として、明治35年（1902年）に建築されたものです。

江戸時代、周辺一帯は臼杵城の三の丸にあたり、評定所、米蔵などの重要施設や、重臣の屋敷が連なっていました。

稲葉家は、藩祖・貞通が関ヶ原の合戦後、臼杵に移封されて以来、明治維新まで一貫して臼杵藩を支配してきました。東京移住後も、旧国立第百十九銀行や旧臼杵藩士族の会社「留恵社」への出資を行うなど、臼杵の経済にも影響を与えました。そのため、臼杵に来る機会は少なくなかったと言われ、その滞在所として機能したのがこの旧別邸だったと言われます。



建築は近代に入ってからのものですが、武家屋敷の様式を色濃くとどめた建築です。

稲葉家の歴史

江戸時代全時期を通じて、臼杵藩主として海部・大野・大分三郡の内に領地（五万石）をもった稲葉氏は、慶長5年（1600年）12月、臼杵に移封しました。初代貞通は、関ケ原の合戦において家康方（東軍）に味方し、軍功によって美濃国（今の岐阜県）郡上八幡城から臼杵へと転封されたのです。稲葉氏は元々伊予（今の愛媛県）河野氏の流れをくみ、本姓を越智氏といいます。臼杵市立臼杵図書館に残る「稲葉家譜」には、慶長5年11月、譜代の重臣達20人が先発隊として臼杵に入り、竹田岡城の中川氏が守衛していた臼杵城の受け取りを済ませ、翌12月25日、貞通が嫡子典通（2代藩主）などを伴って臼杵に入ったと記されています。その後、明治4年（1871）、15代藩主久通の代で廃藩置県を迎えるまでの約270年間、質素倹約、勤勉といった言葉で表すことのできる、臼杵人気質の礎を作り上げていったのです。



（大分県指定有形文化財
稲葉貞通公肖像）

旧平井家住宅



旧平井家住宅　■大分県指定有形文化財

旧平井家住宅は安政６年（1859 年）に建てられたとみられる武士住宅です。江戸時代には、上級藩士である稲葉家（禄高 200 石）の居宅として使用されていました。

建物の特徴としては、「表玄関」（客人用）、「内玄関」（家人用）に分けられた玄関や、天井の桟が床の間に直交する「床刺しの間」が挙げられます。



隣接施設のご案内

荘田平五郎記念子ども図書館　■国登録有形文化財

この建物は、大正７年（1918 年）、三菱財閥の大番頭といわれた荘田平五郎の寄付によって創設された「財団法人臼杵図書館」本館にあたる建物です。現在は、子ども図書館として利用されています。また、同時期に建設された文庫と共に国の登録有形文化財になっています。

荘田平五郎は、弘化４年（1847 年）、臼杵藩儒学者荘田允命の長男として生まれました。幼少の頃より秀才の誉れ高く、慶應義塾卒業後、三菱に入りました。その後、最高経営陣の一人である「管事」となり、三菱拡大期を支えました。

図書館は昭和 22 年、旧臼杵町に移管され、昭和 45 年（1970 年）に現在の本館が開館した後は、旧本館は民俗資料館として活用されてきました。しかし、傷みが激しくなったため改修を行い、平成 15 年（2003 年）４月１日、荘田平五郎記念子ども図書館として再開館させました。内装は子ども図書館としての改修を行いましたが、入母屋造りの屋根、焼き板の外壁、図書館の「圖」（図の旧字体）の字を配した意匠が用いられた鬼瓦などの外装は、当時のままです。

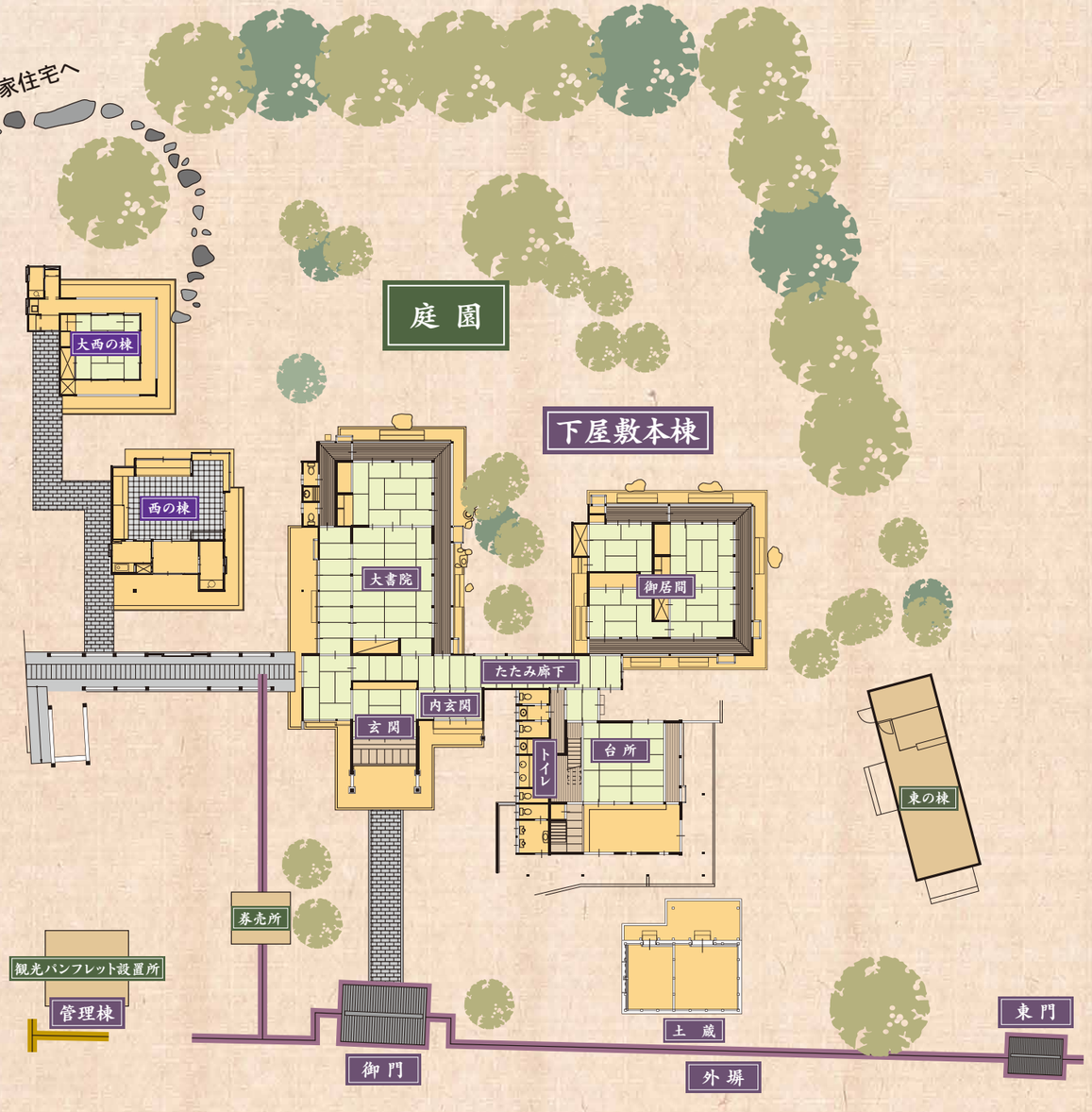
大正当時の木造図書館建築として現在も供用されている建築は極めてまれです。

臼杵市立臼杵図書館文庫　■国登録有形文化財（内部非公開）

この建物は、「財団法人臼杵図書館」本館と共に建てられたものです。内部は３階建ての土蔵づくりを基本としながら、窓には「鉄骨玻璃窓」（鉄骨ガラス窓）を用い、出入り口も鉄製扉を使用するなど、当時としては堅牢な造りを追求しています。

開館後は、稲葉家をはじめ、地元有志から多数の書籍が寄贈され、この文庫に収められました。

施設内見取り図



西の棟・大西の棟



大西の棟

昭和 17 年以降に増築された建物でしたが、主屋との繋ぎ目部分が双方の建物の劣化の要因となっていたこともあり、平成 21 年度からの大規模改修により整備しました。主に貸館利用として、隣接する荘田平五郎記念子ども図書館、臼杵図書館と一体となった利用やお茶（野点）などの文化活動の教室、また地域のコミュニティ活動施設として有料で開放しています。（事前申請が必要です。）

貸館利用料：１時間あたり　各 310 円（準備や片付けの時間も含みます。）



西の棟

稲葉家下屋敷主屋

大書院　■国登録有形文化財



最初に客を迎え入れる「表」空間としての機能を有する建物です。上の間には長押が回されたり、格式を重視する武家住宅の特徴を残しています。一時期、料亭として利用されていましたが、外観を活かす形の活用であったため、全体的な構造に大きな変化はなく、旧大名の格式を今に伝える規模の大きな書院です。

御居間・台所　■国登録有形文化財



いわゆる「奥」空間の中核になる建物です。稲葉家当主の滞在時は、通常御居間棟で起居していたと考えられます。「居間」は当主の御座所として使用されていたと考えられ、床の間や長押等が武家の格式を伝えています。土間の吹き抜けも、かまどの煙で屋根裏をいぶすための工夫の一つです。



土蔵・御門・外塀・東門　■国登録有形文化財

土蔵は、一時稲葉家の重要な資料を収めていたといわれ、その一部は国登録文化財となっています。

外塀は、別邸完成当初から「下見板張り」の姿を受け継いでいて、土塀の支柱と基礎部分には、地元産と見られる「灰石（阿蘇溶結凝灰岩）」が用いられています。特に基礎部分の石積は総高の３分の１を占め、独特の意匠を凝らしています。外塀と御門・東門は一体となって、別邸とその周囲の景観を形成しています。



管理棟



元々ここにあった蔵が別の場所へ移築されていましたが、再移築されました。１階部分は、市内の観光パンフレットを配置したカウンターを、２階部分には、臼杵図書館を寄贈した荘田平五郎を紹介するパネルを展示したギャラリースペースとして開放しています。